

翔

百万石蝶秘会



NO. 87 DECEMBER 1990

三 追 上 羽 蝶

オオカモメヅルからアサギマダラを発見

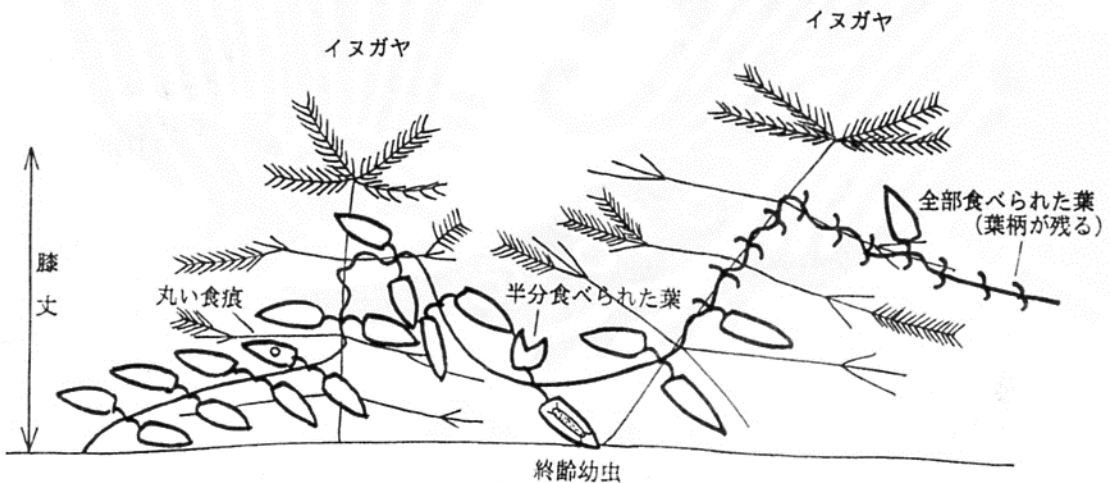
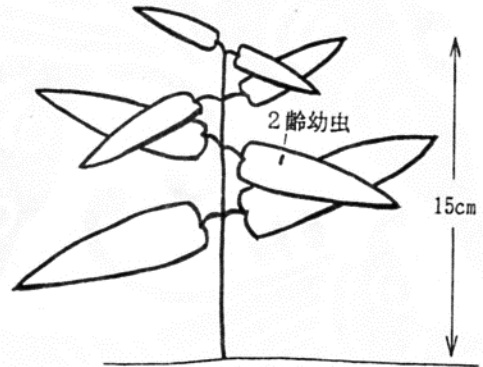
松 井 正 人

1990年8月11日と12日の両日、押水町の宝達山ピーク付近にてオオカモメヅルよりアサギマダラの卵1、2齢幼虫2、終齢幼虫2を発見した。

場所は湧水のある湿った雑木林と手入れされていないスギ林の2カ所で、どちらもうす暗い所だった。雑木林では、黒く変色した1卵(孵化せず)と終齢1幼をそれぞれ別の株から発見し、スギ林では近接した株より2齢2幼、終齢1幼を発見した。食草はいずれも繁茂せず、1本だけがヒョロヒョロと伸びているか、当年発芽したような貧弱なもので、幼虫は膝丈以下といった低い位置の葉裏から発見した。

毎年数多く観察されるアサギマダラではあるが、これまで成虫の記録がなく、大移動が段々と明らかになって来た今日、石川県はただ通り過ぎるだけなのか、それとも一時的な発生があるのか不明のままであったが、これで県内での発生もあることが確認された。

幼虫を捜すにあたり、「アサギマダラを調べる会」の奥野晴三氏には色々と御教示を受けました。本稿を借り心よりお礼申し上げます。



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

オニベニシタバの習性

野 中 勝

《 活動時間 》

昼間雑木林を歩いていると、不意にカトカラが飛び立って驚くことがある。どうもオニベニシタバの場合が多い様である。基本的には夜行性と考えられているカトカラの中であって、本種は比較的明るい時、特に薄暮時に活発に活動する習性を有する様である。今年は以下の様な観察をした。

1990年7月27日夕方、医王山(金沢市)からの帰りに、スポーツセンター近くの道路沿いにある、樹液を出している数本のアベマキを調べてみた。すると10頭以上のオオムラサキに混じって、数頭のオニベニシタバが樹液に集まっていた。オニベニシタバの数は薄暗くなるに従って増加し、樹の回りを活発に飛び回っては吸液に集まり、多いときには1ヶ所に10頭以上の本種を認めた。

8月1日には撮影を目的に、やはり夕刻に同所を訪れたが、この日も多数の本種が観察され、写真を撮りながらほぼ完全に暗くなるまで付近をブラブラしていると、暗くなるに従って本種の数が減り、コシロシタバの数が増加してくるのが認められた。一方、7月25日、7月31日には完全に暗くなってから同所を訪れているが、コシロシタバが圧倒的に多く、25日に12頭、31日に5頭採集されたのに対して、オニベニシタバは31日に1頭採集されたのみであった。

これらの観察を総合すると、オニベニシタバは主に夕方、コシロシタバは主に夜間樹液に集まる様で、時期的、場所的に一致して出現するカトカラの時間的な住み分けなのかとも思われる。

《 産卵時期 》

上記7月31日に採集したオニベニシタバ1♀に砂糖水を与えて飼育し、採卵を試みた。この雌は夏の暑さにも負けず生存しつづけたが、8月一杯は1卵も産付しなかった。ところが9月に入ると1日に1～2卵のペースで産卵を始め、9月6日までに8卵、9月12日までに12卵を産み、12日に死亡した。

たった1例の観察ではあるが、オニベニシタバも7月上旬には出現していながら秋まで産卵しないという、一部のゼフィルスで知られている様な習性を有するのかも知れない。ゼフィルスの場合は休眠芽に産卵する種にこの傾向が強く、芽の形成を待つ為と理解されている様であるが、オニベニの場合はどのようなのであろうか？筆者は不勉強にしてオニベニシタバがどこに卵を産むのか知らないが、芽に産むとは思えないのだが …。

《 のなか まさる 〒920 金沢市涌波町2-7-20 》

○	短 報 22	○
○	キベリタテハ 1990年9月23日 金沢市医王山夕霧峠 1頭目撃 中西重雄	○

ツマグロヒョウモンの集まる山 (その2)

松 井 正 人

その1 (翔 NO.86, 1990)では、ツマグロヒョウモンを観察するには「海の見える見晴らしの良い山頂」が良いことを報告した。ここでは、それに基づいて調査した1990年の結果を報告したい。

《 調 査 地 》

選定に当っては、上記の条件に調査性に優れていることを付け加えた。これはいかに速く調査地にたどり着けるかであり、限られた日数で多くの調査を行うには必要不可欠の条件と言えよう。

	調 査 地	位 置	標 高	調 査 性
1	高 洲 山	石川県輪島市	570m	優れる(車横付け)
2	別 所 岳	石川県穴水町	358m	優れる
4	碁石ヶ峰	石川県羽咋市	461m	徒歩5分
3	宝 達 山	石川県押水町	637m	優れる
5	医王山白兀	石川県金沢市	896m	徒歩20分
6	キ ゴ 山	石川県金沢市	546m	優れる
7	獅子吼高原	石川県鶴来町	630m	優れる
8	白 抜 山	石川県尾口村	891m	徒歩20分
9	稲 葉 山	富山県小矢部市	347m	優れる

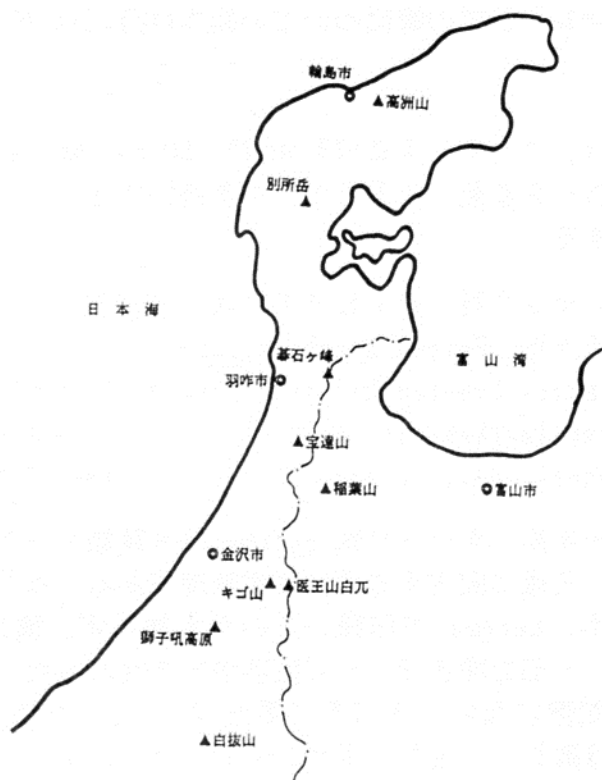
《 結 果 》

	高 洲 山	別 所 岳	碁石ヶ峰	宝 達 山	医王山白兀	キ ゴ 山	獅子吼高原	白 抜 山	稲 葉 山
8.25				3♂					
8.26				1♂					
8.29				×					
9.5				×					
9.8				1♂		×			2♂
9.9		4♂	1♂	×			×		
9.22	×	×							×
9.23				×					
9.24				×					×
10.7				×					
10.10				×					×
10.11				×	×				×
10.17		2♂							
10.19	×	×							
10.20						×			
10.21								×	

※ 空白は調査していない事を、×は観察できなかった事を示す

調査は概ね9時から16時にかけて行ったが、観察できたのは10時から12時の間であった。また、1990年は迷蝶の当り年も手伝って14♂を確認したが、そのほとんどが汚損したもので、わずかに9月9日と10月27日の別所岳における、それぞれ1頭づつが新鮮なものであった。

末筆ながら調査に御協力頂いた、嵯峨井淳郎、上田 昇の両氏にお礼申し上げます。



《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

アサギマダラを14日後に再捕獲

松井 正人

1990年、宝達山ピークに於いて、9月9日マークのアサギマダラ1♂を14日後の9月23日に同地点で再捕獲した。

宝達山を含めマーキング調査は数年前より行っており、当日や翌日の再捕獲は数多く経験しているが、今回のような事は初めてである。この年は以下の如くマークしているが、2日以上後の再捕獲はこの1例のみであった。

宝達山ピークに於けるマーキング数（1990年）

8月11日	16♂ 13♀	9月5日	1♂ 1♀
12日	12♂ 8♀	8日	3♂ 1♀
14日	4♂ 2♀	9日	11♂ 6♀
25日	5♂ 1♀	23日	33♂ 17♀
26日	4♂ 1♀	24日	9♂ 7♀
29日	3♂ 1♀	合計	101♂ 58♀

※ この中には、再捕獲したものは含まれていない。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

マレーシアの蝶についての報告(IV): シロチョウ科 (その1)

指 田 春 喜

筆者は、これまで本誌(翔 NO.77, NO.83, NO.84)に「マレーシアの蝶についての報告」を連載してきたが、引き続いて今回から2回に分けてシロチョウ科を報告する。

《 シロチョウ科 PIERIDAE 》

1. キチョウ Eurema hecabe hecabe

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 1♂

Kisap langkawi Is. 1989年8月19日 2♂

Fraser's Hill Pahang 1989年8月20日 2♂

マレー半島にキチョウ類 Eurema は8種類が分布しており、これらを野外で採集時に正確に同定するのはまず無理である。私などはマレーシアに行くにあたっても、Eurema が何種いるのかも知らず、展翅後に図鑑や文献で同定するまで、一部を除きほとんど区別ができなかった。こんな訳で、当然採集時の状況は記憶にない。塚田大図鑑と Freming だけではなかなかこれらの正確な同定は難しい。現在日本語のものでは、白水 隆・矢田 修の『マレー半島の Eurema キチョウ属』(ちょうちょう, Vol.1, NO.4, 1978)が最も役にたつ。

熱帯東洋区の於いても最も個体数が多い。本種の外観上の特徴は以下の3点である。♂翅表の地色は濃黄色。後翅外縁は第3室付近で角ばる。前翅裏面中室内に2個の黒班を有する。

2. ブランダキチョウ Eurema blanda snelleni

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 1♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1♂

本種はタイワンキチョウの和名で知られ、八重山や台湾には別亜種 arsakia が分布する。

本種の外観上の特徴は以下の3点である。前翅裏面中室内の黒班が3個ある。(基部の黒班は小さい) 翅表の地色の黄色は淡い。前翅外縁黒帯は狭い。

3. シムラトリクスキチョウ Eurema simulatrix tecmessa

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 2♂

ニセキチョウの和名が知られ、その分布は局所的である。本種の外観上の特徴は以下の3点である。前翅裏面中室内の黒班は2個であり、ジグザグ状を呈する。♂の翅表外縁黒帯は狭くならない。前翅裏面翅端に割目の入った四角い黒褐色班を表す。

4. サリキチョウ Eurema sari sodalis

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月28日 3♂

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

本種の外観上の特徴は以下の点である。前翅裏面中室内の黒斑は1個であるが、明瞭でない。前翅裏面翅端に四角いチョコレート色の斑紋を現す。

5. ニケビレイキチョウ Eurema nicevillei nicevillei

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1988年12月31日 2♂

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 2♂

マレーアトグロキチョウの名で知られる。前翅後縁に明瞭な黒帯を生ずるので、マレー半島では同定上問題となる近縁種はない。前翅後縁の黒帯により野外での識別も容易。本種は光がほとんど差し込まないようなジャングルに産する珍品であるが、平地のジャングルにのみ産するため、日本人採集者の多いキャメロン・ハイランドなどでは採れない。

6. クロテンシロチョウ

Leptosia nina malayana

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月26日 1 ex

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月10日 1 ex

19 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月11日 1 ex

Leptosia nina nina

Forest Park Teluk Bahang Penang Is. 1988年12月30日 1 ex

マレーシア半島でも中央部以南には malayana が、ペナン島、ランカウイ島および大陸には nina が分布し、nina は14亜種中最小。近年、与那国島で採れているものは台湾亜種 niobe なのかどうか筆者は知らない。

7. スキラウスキシロチョウ Catopsilia scylla cornelia

Gunong Jerai Kedah 1989年8月17日 1♀

一般にはオオキシタシロチョウと呼ばれるが、台湾には分布しない。Gunong Jerai (ケダー・ピーク) 登山口以外では目撃できなかった。飛翔が極めて敏速であったのと、炎天下の猛烈な暑さにめげ、この他に採れなかったのは、今考えると誠に残念である。

8. ピランテウスキシロチョウ Catopsilia pyranthe pyranthe

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

本亜種 C.p.pyranthe はウラナミシロチョウの名で良く知られ、八重山諸島でも毎年発生しているようである。

9. ウスキシロチョウ Catopsilia pomona pomona

Kisap langkawi Is. 1989年8月19日 1♀
Fraser's Hill 山麓部 Pahang 1989年8月22日 1♂

本種の変異は極めて著しく、つい最近までギンモン型とムモン型が別種に扱われていたことは周知のことである。本個体の地色は白色であるが、通常は淡黄色から乳白色の場合が多い。

10. アサギシロチョウ Pareronia valeria lutescens

Gunong Raya UlaMelaka Langkawi Is. 1989年1月1日 1♀
Fraser's Hill Pahang 1989年8月20日 1♀

♂は文字通りのあさぎ色であり、その飛翔は極めて俊敏であり、吸水中以外はなかなか採るのは難しい。筆者も何回も降り逃しており、結局採集できなかった。

11. メスシロキチョウ Ixias pyrene alticola

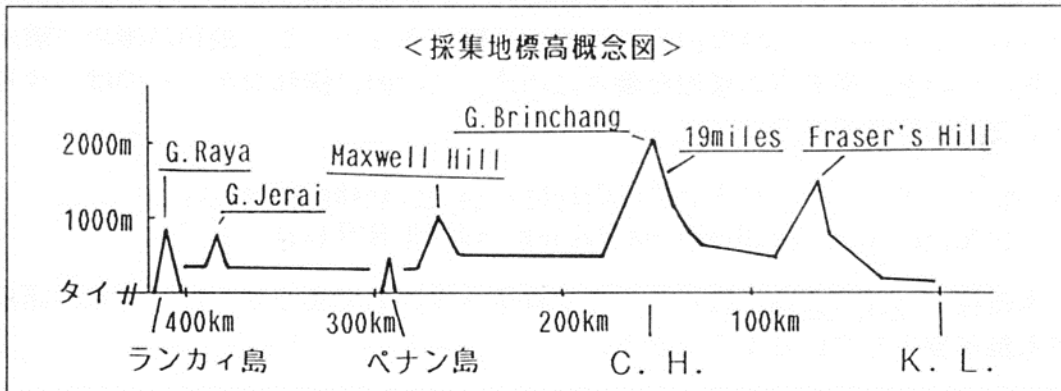
Fraser's Hill 山麓部 Pahang 1989年8月22日 1♂

マレーシア国内にも2亜種、平地に birdi が、山地には alticola が分布しており、台湾産は別亜種 insignis となる。insignis に比べ本亜種 alticola は後翅表面の地色が淡くほとんど白色に近い。またマレーシアでは、台湾の南山溪のような多産地はなく、局所的に産するようである。筆者も2度の採集行で本個体しか得られなかった。

12. ツマベニチョウ Hebomoia glaucippe aturia

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

本種は東洋区の全域に産し、現在33亜種に分けられており、我国にも3亜種 (liukuensis、cincia、shirozui) が分布する。沖縄や台湾では普通種であるが、マレーシアにおいては個体数は多くなく、目撃した数も全部で5頭ほどであった。



13. ピロノメマネシシロチョウ Prioneris philonome themana

19 miles Cameron Highland Pahang 1988年12月28日 1♂

10 miles Cameron Highland Pahang 1989年8月13日 1♂

Fraser's Hill 山麓部 Pahang 1989年8月22日 1♂

飛翔力が強いが、林縁の開けた場所や川岸などで吸水しているのを良く見かけ、シロチョウ類の中では大形であるためか、ネットに入れることが多い。

14. ベラドンナカザリシロチョウ Delias belladonna malayana

Gunong Brinchang Cameron Highland Pahang 1988年12月27日 13♂ 1♀

Gunong Brinchang Cameron Highland Pahang 1989年8月12日 19♂

高地性の Delias であり、本亜種 malayana は標高1500m以上の山地に分布。キャメロン・ハイランドのGunong Brinchang山頂には割合多数見られたが、他では(例えばキャメロン・ハイランドのGunong Jasarなど)目撃できなかった。♀は後翅8室基部の黄色斑がやや淡色となるほか、翅型がやや丸みをおびる。



1段 キチョウ プランダキチョウ シムラトリクスキチョウ サリキチョウ ニケビレイキチョウ

2段 クロテンシロチョウ クロテンシロチョウ スキラウスキシロチョウ ビランテウスキシロチョウ
(malayana) (nina)

3段 ウスキシロチョウ アサギシロチョウ メスキキチョウ

4段 ツマベニチョウ ピロノメマネシシロチョウ ベラドンナカザリシロチョウ

《さしだ はるき 〒920 金沢市材木町8-3》

アサギマダラの急降下を目撃

松 井 正 人

アサギマダラの急降下とはいかなるものか、飛行機のイメージからすると、頭を下げた、下に向かって飛ぶ格好が思い浮かぶが、そうではなかった。

これを目撃したのは、やはり押水町の宝達山(1990年9月24日)である。1頭のアサギマダラを捕獲しようと近づいた時に、もう1頭のアサギマダラが現れ、2頭もつれあいながら舞い上がって行った。と思うと1頭がスーと5m程落ちるように下りてきたかと思うと、ピタリと止まり、水平に飛んでいった。この行動でいかに翅を使ったのか、しっかり目撃してしまったのである。

もつれあいながら舞い上がって行くのはしっかり見ていないが、スーと落ち始める時、体は水平のまま開いていた翅をV字状にすぼめたのである。その状態でスーと落ちてきて、今度は逆に翅をパッと開いて止まり、そのまま横方向へ滑空したのである。なんとも見事な光景であり、思わず感嘆の声を漏らしてしまったしだいである。

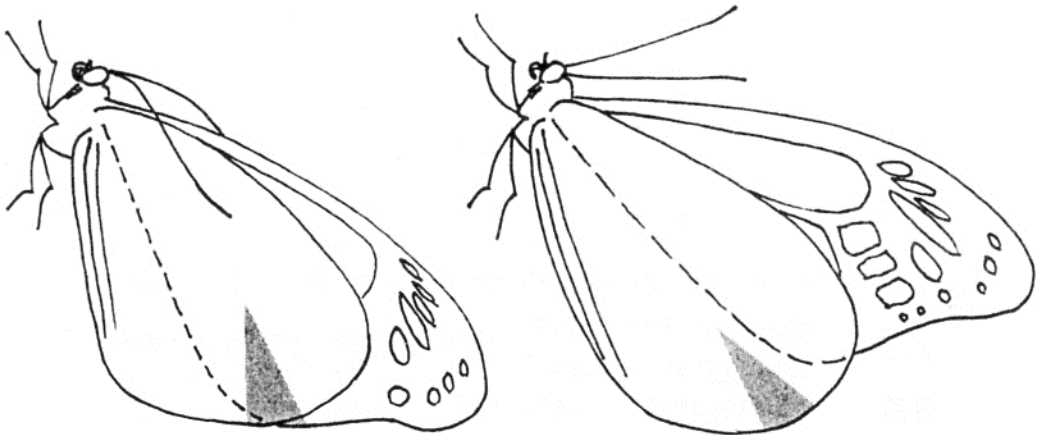
《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

鳥に攻撃されたいアサギマダラ

松 井 正 人

押水町の宝達山でアサギマダラのマーキング中に下図のような2個体を確認した。いずれも翅そのものは新鮮なのに対し「くちばし状」の跡が見られる事から、おそらくは鳥に攻撃されたのではないだろうか。

1990年9月24日いずれも飛翔中を捕獲



前翅、後翅ともに跡

後翅のみに跡

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

❶佐渡で迷蝶が乱舞。菊地佐渡支局長によれば、カバマダラとスジグロカバマダラの集団が同時に見られたらしい。おそらく一時的に発生したものと思われるが、2種が同時に同じ場所というのも珍しい。

❷9月30日松井、上田の神出鬼没組、飽きずに宝達山。ピークは雨にもかかわらず、アザミポイントで吸蜜中のアサギマダラを発見。

❸松井氏、ツマグロキチョウを求めて河北潟へちよくちよく足を運んでいる。今年は迷蝶の当たり年とかで、埋立地のカワラケツメイが気になるらしい。

❹10月21日釈迦林道キノコパーティー。総勢30余名が集めた、ナメ、ツメタケ、ムキタケ、ナラタケ、クリタケ、ヒラタケ等を大鍋に入れ、これを肴にビールを飲む。

❺10月29日「石川の自然」写真集打合せ会。写真集のスタイルやページ数について打ち合わせた。出席は、松井、野中、竹谷、徳本、高羽、富樫、梅(県)、美馬(県)の各氏。

❻吉村(弟)氏、「岐阜市で5時まで仕事をし、7時には金沢で晩飯を食べていた」なんてことが再三あるらしい。氏が言うには、高速料金とガソリン代を考えなければ、通える距離らしい。

❼11月11日松井、上田、野中、中西の4人組は白山別当出合へ。市の瀬より奥は雪が深くなり、ノーマルタイヤでは輪だちの跡しか走れなかった。そこまでして、いったい何をしに行ったのか？

❶アメリカシロヒトリが3化。例年では2化のはずが、今年の夏は暑く長かったためか3化が見られ、その子孫は色付いてきた街路樹を食べていた。

❷子煩悩の上田氏、出張先からは決まって子供に電話。ところが最近様子が違うらしく、虫の様子さえ聞けば、そそくさと電話を切ってしまうらしい。

❸11月12日医王山で撮影会。来年度発行の写真集に向け、小幡氏を講師に向かえての開催。ところが集まったのは松井、野中の2氏のみ。

❹11月12日井村氏、家族サービスを兼ねて釈迦道へ。前日に積もったらしい雪には熊の足跡がいっぱい。いつしか出会すことに若干の恐怖を覚えながらも、しっかりブナ林を散策し、何かを採ったらしい。

❺11月18日松井、上田、野中、勝海の4氏、医王山で採卵会。なんとフジミドリが3ケタ。今年はフジの当たり年か。

❻吉村(兄)氏、減量に大成功。90kg前後の体重が、なんと3ヵ月で67kgになった！ 体調はすこぶる良いものの、洋服はみんなダブダブでお酒はすぐ酔っぱらってしまうらしい。顔も変わってしまったとかで、今度会うのが楽しみ。

❼吉村(弟)氏、最近サクラの立枯を物色中。なんでも日本海側のヒラタクワガタはサクラに付くらしく、あわよくばオオクワガタも採れるらしい。

松井家はアクアリウム！ 居間の襖を開けるとアサギマダラが飛びかい、ここそこに止まっている。宝達山の子孫とかで、11月中頃より羽化し始めたが、外は寒いのでこうなっ
たらしい。

11月23日野中氏、カメラをかついで医王山。フジの卵を撮るんだとはりきっていたが、結局のところ採ってばかり。

11月23日中西氏、フジ豊卵の噂に我慢しきれず、仕事をサボって釈迦道へ。カメラも持っていったらしいが、はたして撮ってくるか、採ってくるか。

風の便りによれば太平洋側のゼフは不作らしい。こちらは医王山しか知らないが、今のところメスアカ、ウラクロ、フジは多いようだから、豊作だと思うよ。

田中氏、最近カンアオイに惚れ込み、セノビカンアオイの分布を精力的に調査している。

例会の記録

10月5日(金)城南管工2Fにて8時より開催。今回はスライド大会で、まずは松田氏のビデオから。上高地、沖縄、医王山の各編は、NHKの「自然のアルバム」を見ているような錯覚に陥った。続くスライドは野中氏の夜間の樹液に集まる昆虫、最後は例によって竹谷氏の息を飲む映像で締めくくられた。

また今回は、県の企画する「石川の自然」の『昆虫編』を石川むしの会と共同編集することについて話合った。

参加は、近藤、指田、松田、野中、澤田、松井、吉村、中田、井村、竹谷、小幡、高野、中西(2人)の14名。

目次

松井正人：オオカモメヅルからアサギマダラを発見	1
野中勝：オニベニシタバの習性	2
松井正人：ツマグロヒョウモンの集まる山(その2)	3
松井正人：アサギマダラを14日後に再捕獲	4
指田春喜：マレーシアの蝶についての報告(IV)：シロチョウ(その1)	5
松井正人：アサギマダラの急降下を目撃	9
松井正人：鳥に攻撃されたいらしいアサギマダラ	9
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10
編集部：例会の記録	11

とぶ NO.87

1990年12月7日発行

〒920-01 金沢市大場町東871-15 松井方
百万石蝶談会

☎ 0762-58-2727
振替 金沢5-562

印刷 小西紙店印刷所